

第46回 中東協力現地会議

ビジネスレポート  
モロッコ



**MITSUI & CO.**

2023年8月22日

三井物産株式会社カサブランカ事務所

曾田 武史

# Contents

## モロッコ基礎情報

### モロッコのビジネス環境とその魅力

---

1. 政治経済の安定するモロッコ
2. 地政学的な優位性 – 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点であるモロッコ
3. 豊かな人材をもつモロッコ

### モロッコのグリーンエネルギー・ビジネス現状と将来性

---

4. モロッコのグリーンエネルギー産業 – 再生可能エネルギー概要とプロジェクト一覧
  - 西サハラの潜在力
  - グリーン水素・アンモニア プロジェクト

### モロッコのその他注目ビジネス分野

---

5. モロッコの水ビジネス – 水不足の現状と淡水化プロジェクト
6. モロッコの農業
7. モロッコの自動車・航空宇宙産業

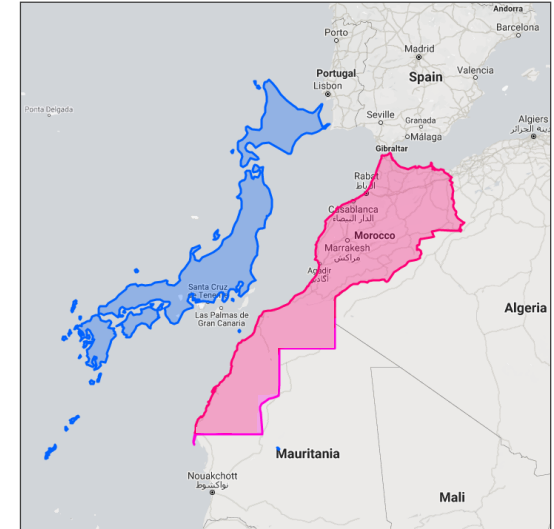
### 三井物産のモロッコでの事業展開

---

8. モロッコでの当社事業概要 – 三井物産 会社概要
  - 三井物産 アフリカ拠点
  - サフィ 石炭火力発電事業
  - タザ 風力発電事業
  - ザラール 穀物・飼料・養鶏・食肉加工インテグレーション事業

## モロッコ基礎情報

|        |   |
|--------|---|
| 面積     | 71.3万km <sup>2</sup>  |
| 人口     | 3,746万人   |
| 政治体制   | 立憲君主制   |
| 主要都市   | ラバト (首都/人口58万人)、カサブランカ (同336万人)、<br>フェズ (同115万人)                  |
| 言語     | 公用語はアラビア語・ベルベル語<br>フランス語も広く用いられる                                  |
| 宗教     | イスラム教スンニ派が多数  |
| タイムゾーン | GMT+1 (日本との時差8時間)   |
| 通貨     | モロッコディルハム / MAD<br>(1MAD = 約14.4円、9.8MAD = 約1米ドル)<br>※2023年7月1日時点 |
| 国格付け   | S&P : BB+ (ベトナムと同水準)  |



\*面積は日本の約1.9倍



\*経済指標は世銀データを参照

# 1. 政治経済の安定するモロッコ

国王の強いリーダーシップ、効果的な議会制度、高い治安水準により政治的な安定を実現

## 国王

- モハメッド6世は、父ハッサン2世の崩御を受け、1999年7月に即位
- アラウィ朝の23代目の王であり、イスラム預言者ムハンマドの直系子孫
- モロッコの近代化と国民生活の向上を目指し、様々な政治・経済・社会改革を実施
- モロッコ国内外でジェンダー平等及び宗教的寛容を促進

## 議会政府と治安

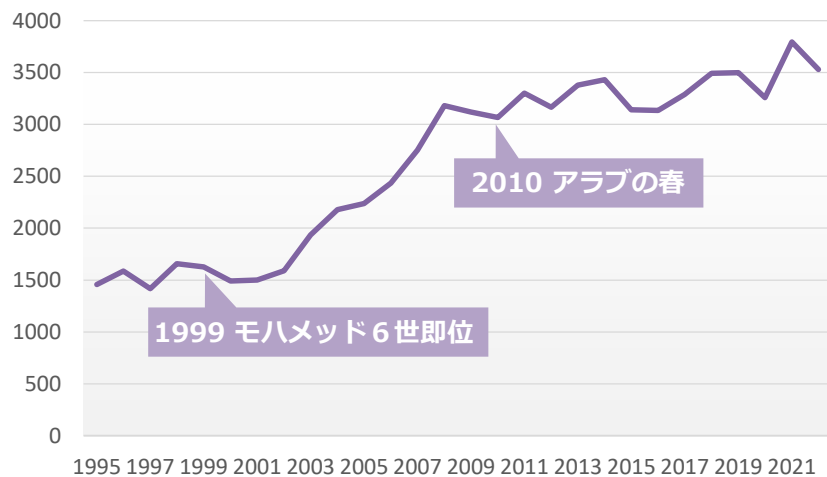
- 透明性あるプロセスで普通選挙を実施（前回の総選挙は2021年）
- 治安水準が高く、安定（治安当局が良く機能しており、2011年以降テロ事件は発生していない）

# 1. 政治経済の安定するモロッコ

GDPと為替レート推移が示すモロッコ経済の安定性

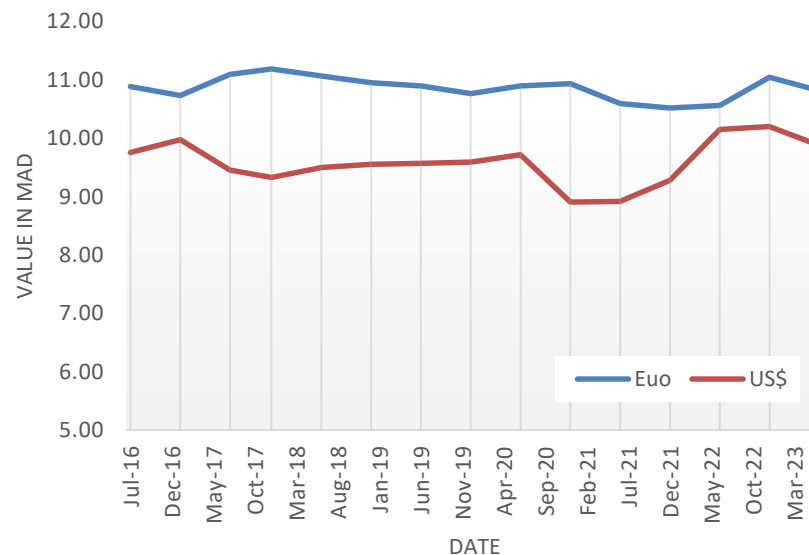
20年足らずでGDPは3倍増、  
一人当たりGDPは倍増

GDP per capita (current US\$)



安定的な為替レート  
MADはユーロと米ドルに連動

Mad Exchange Rate to Euro and US\$



出典：Bank AL Maghrib (モロッコ中央銀行)

GDP

2000年の **420**億ドルが  
2022年は **1380**億ドルに

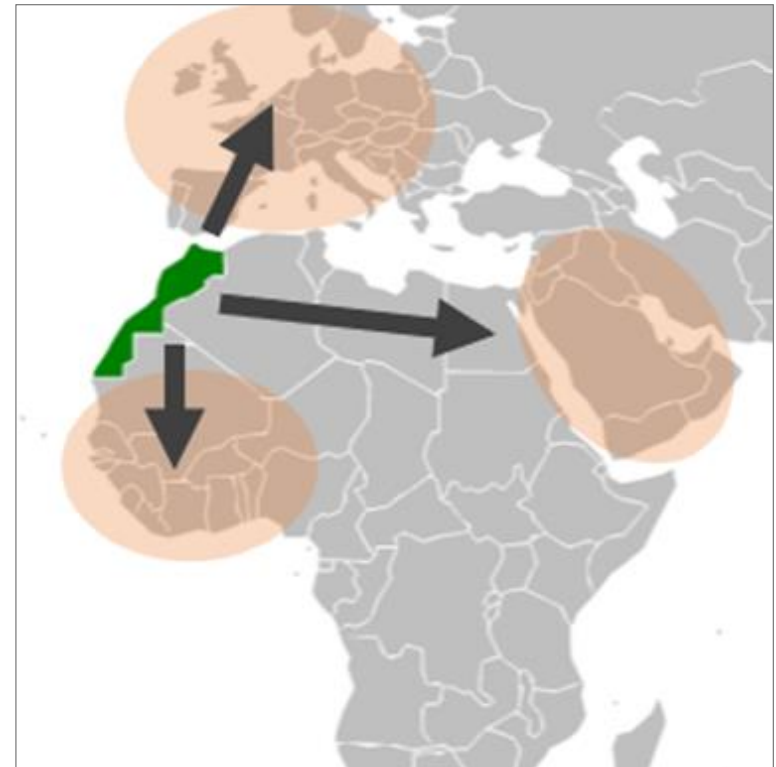
出典：World Bank

## 2. 地政学的な優位性 – 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点であるモロッコ

- 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点としての戦略的位置付け、歴史的・経済的関係性により、地域のハブとしての地位を確立
- 欧州、アフリカ、中東諸国を中心に50以上のFTAを締結

「モロッコはアフリカに深く根を下ろし、  
アラブ・イスラム世界に幹を持ち、  
ヨーロッパに枝を伸ばす大樹である」

前モロッコ国王 ハッサン2世  
(1929年～1999年)



## 2. 地政学的な優位性 – 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点であるモロッコ

立地、FTA、競争力ある製品、物流インフラ、人的ネットワークで欧州とアフリカを結ぶ

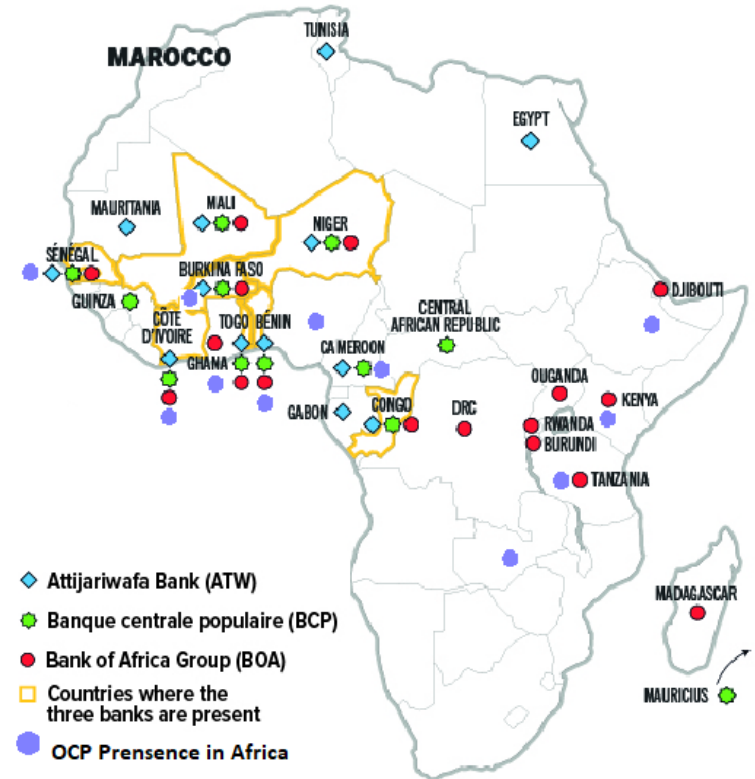
- EUとの自由貿易協定（1996年署名、2000年発効）
- アフリカ最大のEU向け輸出国
  - 自動車（2022年、465千台生産）
  - 繊維（2022年、EU向け第二位の衣料品供給国）
  - 果物・野菜（2022年、EU向け第一位のトマト供給国）
- 欧州への積み替え港としてのタンジェメッド  
（アフリカ最大のコンテナ港、パフォーマンス指標の世界ランキング4位）
- モロッコ人コミュニティは欧州最大の移民コミュニティの1つ（約300万人）
- EU移民政策におけるモロッコの重要性 – アフリカから欧州に向かう際の通過点（モロッコ内スペイン領のセウタとメリリヤを経由）



## 2. 地政学的な優位性 – 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点であるモロッコ

西アフリカでは最大、アフリカ全土では2番目に大きな域内投資国

- アフリカの25カ国にモロッコの銀行が存在
- リン酸肥料公社OCPはアフリカに12の子会社を持つ
- Maroc Telecomはアフリカ11カ国に展開
- Royal Air Marocはヨーロッパと西アフリカを結ぶ  
(アフリカ25都市へ就航)





## 2. 地政学的な優位性 – 欧州、アフリカ、アラブ・イスラム諸国の交差点であるモロッコ

アラブ連盟、王室、アブラハム合意、FTAを通じた、アラブ・イスラム・中東諸国との密接な関係

- アラブ連盟加盟国（全22か国が加盟）
- モロッコはアブラハム合意の参加国（2020年9月批准）
- 大半のアラブ・イスラム諸国とFTAを締結
- 宗教観光  
モロッコは、その重要なイスラム教とユダヤ教の遺産により、中東諸国からの観光客を引き付ける

### アブラハム合意 6か国外相会合



出典：Abraham Accords Peace Institute

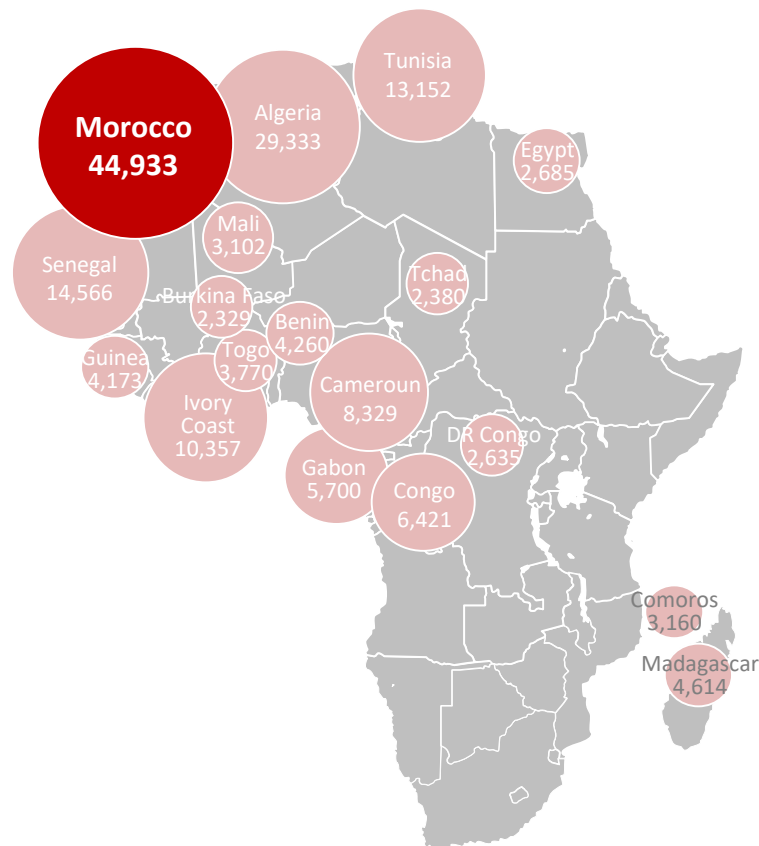
左からバーレーン、エジプト、イスラエル、米国、モロッコ、アラブ首長国連邦の各国外務大臣

### 3. 豊かな人材をもつモロッコ

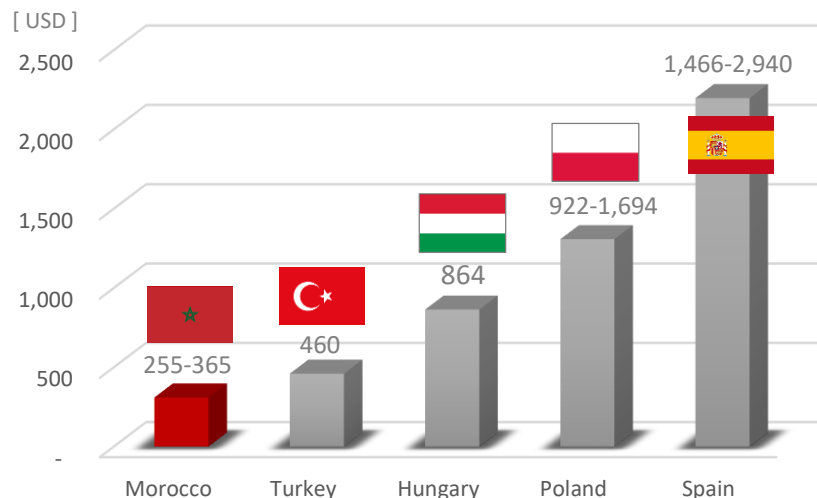
コスト競争力のある若い労働力と、高等教育を受けたグローバル人材

- 低賃金で手先が器用、語学能力も高い労働力
- 人口の平均年齢は29.5歳（2023年）
- 海外で高等教育を受けた人材が豊富
- モロッコで学ぶ留学生の大半がサブサハラアフリカの人材（全体の85%。23,411名の留学生の内、19,256名）

フランスで学ぶ学生の出身国



ワーカーコストの比較：製造業（/月）



出典：JETRO 2022

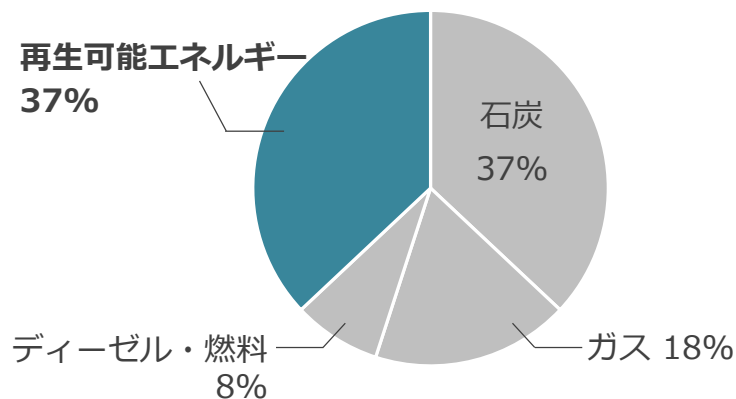
出典：Campus France, MESRI-SIES 2022

## 4. モロッコのグリーンエネルギー産業 – 再生可能エネルギー概要とプロジェクト一覧

モロッコは再生可能エネルギーで、生産大国と、輸出者になることを目指す

### モロッコは再生可能エネルギーの域内リーダー

モロッコのエネルギーミックス (2022年)



2030年までに  
電力容量の52%  
を再エネに

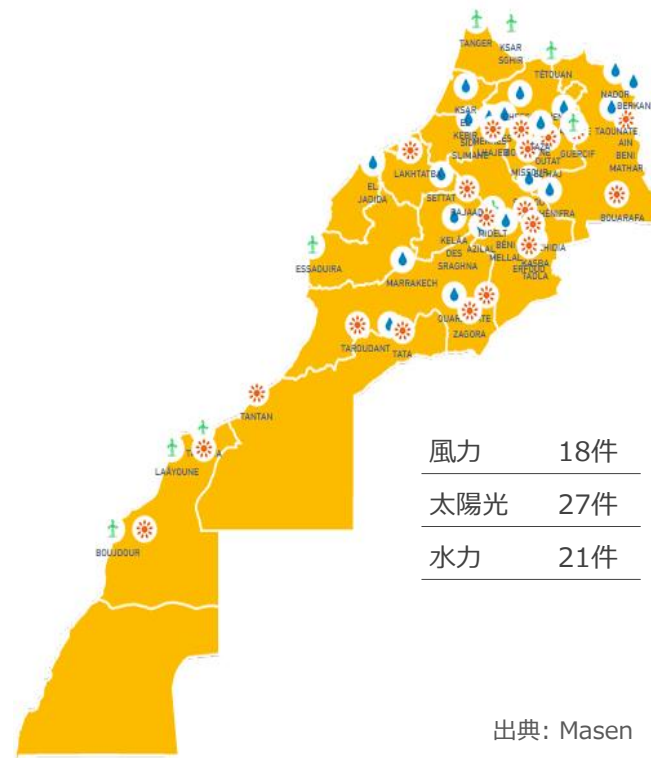
欧州への再エネ  
輸出計画

2050年までに  
発電容量の80%  
を再エネに

出典: ONEE

再生可能エネルギープロジェクト一覧

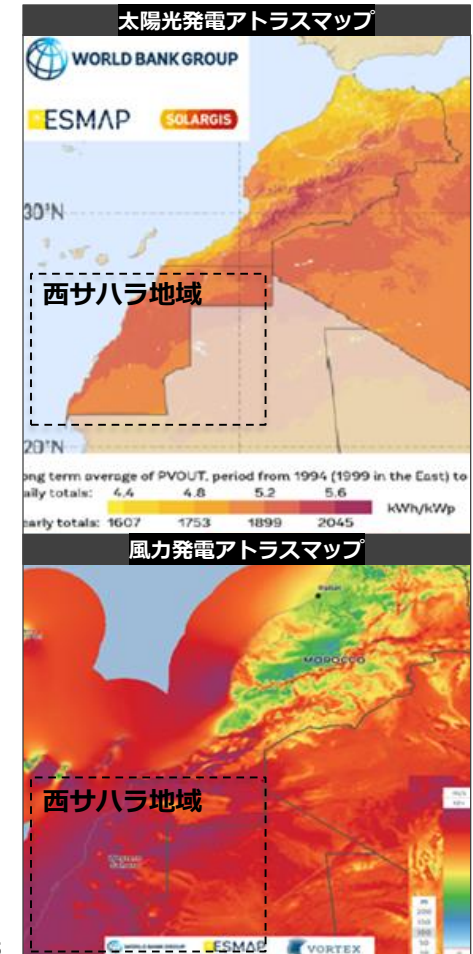
(既存・2027年までに予定されているもの)



## 4. モロッコのグリーンエネルギー産業 – 西サハラの潜在力

モロッコが実効支配する西サハラ地域は、世界で最も再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域の一つ

- 西サハラの太陽光ポテンシャルは世界で最も高いレベル
- 西サハラの陸上風力ポテンシャルは洋上風力ポテンシャルと同等
- 太陽光に適した広大な未開発の土地と強力で持続する風により、ベースロード電源として最適
- 西サハラ地域での再生可能エネルギー開発は、地域社会における持続可能な経済発展、雇用創出、化石燃料への依存低減に貢献
- 再生可能エネルギーのプロジェクトが多数進行中（既存5件、進行中5件、計画中4件）。外国企業では、ACWA Power（サウジアラビア）、Engie（フランス）、Enel（イタリア）などが関与・興味を示す



出典：Global Solar Atlas, Global Wind Atlas

## 4. モロッコのグリーンエネルギー産業 – グリーン水素・アンモニア プロジェクト

グリーン水素の生産コストが最も低い国の一つとして、主要輸出国となることを目指す

- モロッコ政府はグリーンエネルギー技術・機会のプロモーションを進め、同産業の法的枠組み整備を進める
- 国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) は、モロッコが2050年までには豪州、チリに次いで、コスト競争力のあるグリーン水素生産国、且つ輸出国になるであろうと分析

### グリーン水素・アンモニアの潜在プロジェクトリスト (公表ベース例)

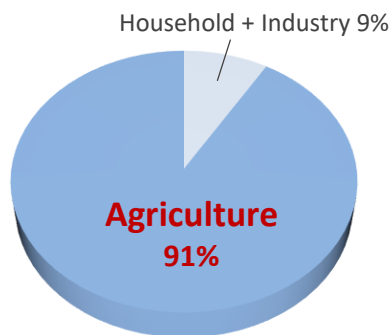
| 企業・組織名                     | 製品             | 予定地               | 規模                    |
|----------------------------|----------------|-------------------|-----------------------|
| UM6P, OCP, Shell           | グリーンアンモニア      | Jorf Lasfar       | パイロットプラント             |
| UM6P(OCP), Proton Ventures | グリーンアンモニア      | Jorf Lasfar       | パイロットプラント             |
| Masen                      | グリーン水素         | [未定]              | 100 MW                |
| Total Eren                 | グリーン水素 / アンモニア | Guelmim-Oued Noun | 10 GW                 |
| Fusion Fuel & CCC          | グリーン水素 / アンモニア | [未定]              | 600 MW (electrolyzer) |

注：UM6P (Mohammed VI Polytechnic University, モハメッド6世工科大学)

## 5. モロッコの水ビジネス – 水不足の現状と淡水化プロジェクト

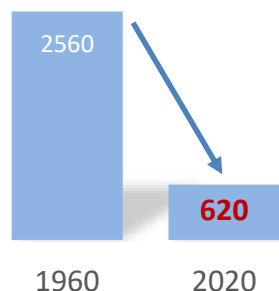
モロッコ経済を支える農業が水不足の危機に直面

Water use by sector (2020)



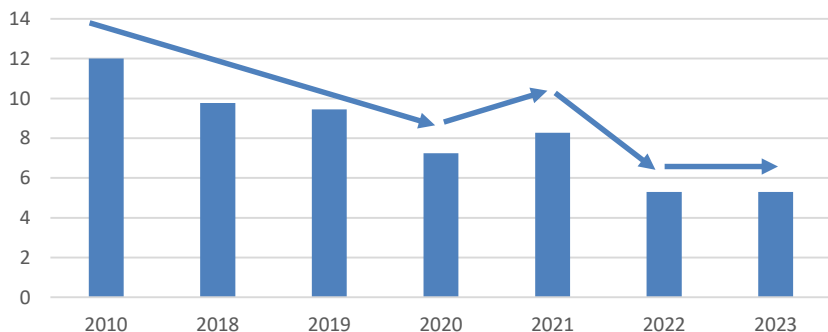
出典：World Bank

Water availability per capita per year (m3)



出典：World Bank

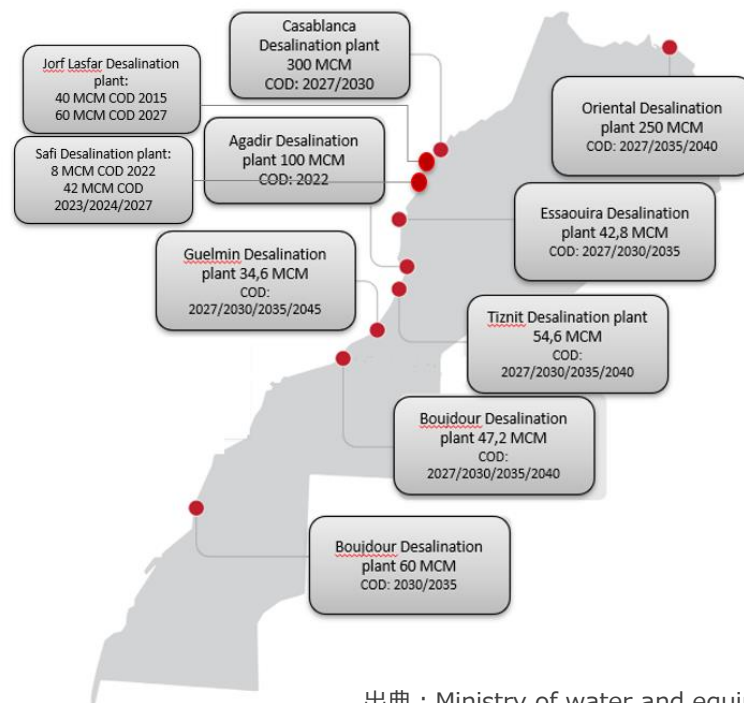
ダム貯水量 (10億m3)



出典：Ministry of water and equipment

淡水化プロジェクトを含む水関連プロジェクトを強力に推進

- 政府は2030年までに20件 (10億m<sup>3</sup>/年以上相当) の海水淡水化プロジェクトに着手する計画
- 2030年までに10億m<sup>3</sup>/年の水再利用を目指す。再生水は農業を中心に活用



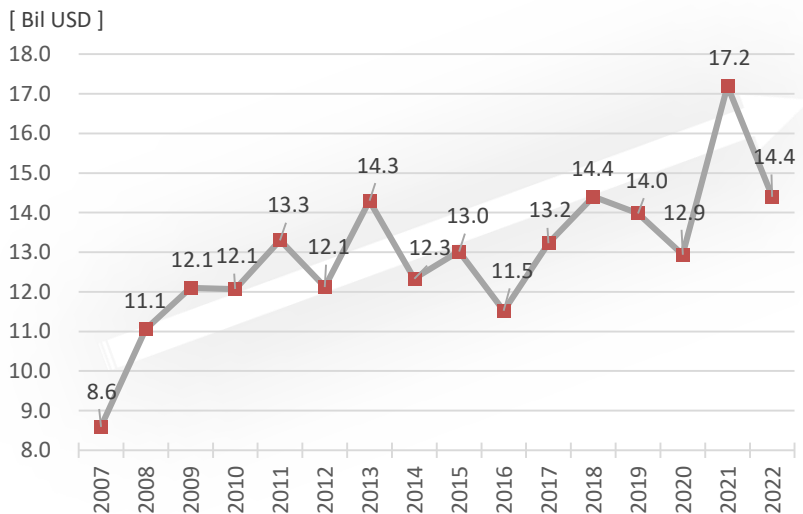
出典：Ministry of water and equipment

## 6. モロッコの農業

国王のリーダーシップと農業開発戦略の着実な実行による競争力ある農業

- 農業からのGDPが全体の14%程度を占める
- 2008年から2018年の10カ年計画 “Plan Maroc Vert” にて輸出金額2倍にし、農業高度化を推進
- 新たな開発戦略 “Generation Green” で更なる発展を目指す
- 野菜・果物の一大輸出国として存在感を増す
- 競争力ある生産コストと欧州等地域との収穫時期のずれも魅力

### GDPの中で農業が占める金額



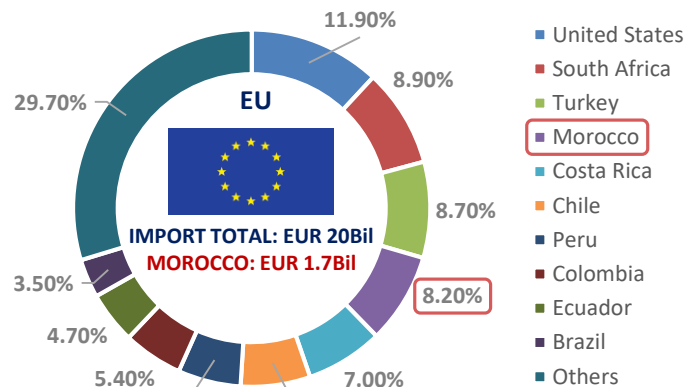
出典：World Bank

### MAJOR EXPORT PRODUCTS FROM MOROCCO

- トマト：輸出量世界4位（2022年）
- ブルーベリー：輸出量世界4位（2022年）
- マンダリン：輸出量世界4位（2022年）

出典：FAO STAT

### 欧州への野菜・果物輸出金額トップ10



出典：Eurostat 2017

### “PLAN MAROC VERT”におけるその他達成事項

#### サステナビリティ

点滴灌漑導入面積を3.7倍まで増やし、20億m3の水を節約

#### ソーシャルインパクト

50百万日の雇用創出（300千名の農場雇用と同等）

出典：Ministry of Agriculture



## 7. モロッコの自動車・航空宇宙産業

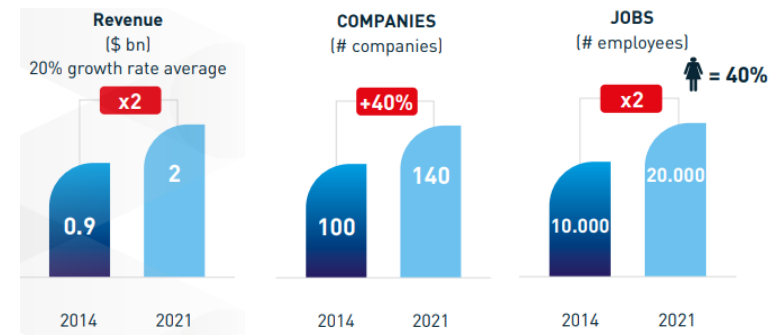
アフリカ最大の自動車輸出国で、航空機部品の供給国

### 自動車産業

- モロッコはアフリカ最大の乗用車輸出国
- モロッコを拠点に欧州2大企業が70万台以上の生産能力を持つ  
ルノー（50万）、ステランティス（20万）
- 2030年には計100万台に達する見通し
- 自動車輸出はモロッコ最大の輸出品に（USD83億）
- 250社に及ぶTier 1/2/3部品サプライヤーの存在
- 自動車生産で22万人以上の雇用を創出

### 航空宇宙産業

- モロッコは、過去数年間で年率20%の成長率で航空機産業プラットフォーム国として台頭
- 世界でも有数な航空宇宙エコシステムを形成（140社、2万人の雇用）
- ボーイングやエアバスなどの世界的な航空機メーカーがモロッコで生産された部品を使用



出典 AMDIE



## 8. モロッコでの当社事業概要 – 三井物産 会社概要

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 商号                    | 三井物産株式会社（英文名 MITSUI & CO., LTD.）  |
| 設立年月日                 | 1947年（昭和22年）7月25日   |
| 資本金                   | 342,560,274,484円  |
| 従業員数                  | 5,449名（連結従業員数：46,811名）  |
| 事業所数<br>（2023年4月1日現在） | 128拠点（63か国・地域）<br>国内11拠点／海外117拠点  |
| 本店                    | 〒100-8631<br>東京都千代田区大手町一丁目2番1号<br>TEL: 03-3285-1111<br>URL: <a href="https://www.mitsui.com">https://www.mitsui.com</a> |
| 連結決算対象関係会社            | 連結子会社：国内87社／海外210社<br>持分法適用会社：国内45社／海外171社<br>合計：513社   |
| 株式情報                  | 上場証券取引所：東京、名古屋、札幌、福岡<br>発行可能株式総数：2,500,000,000株<br>発行済株式総数：1,544,660,544株<br>株主数：324,263名                               |

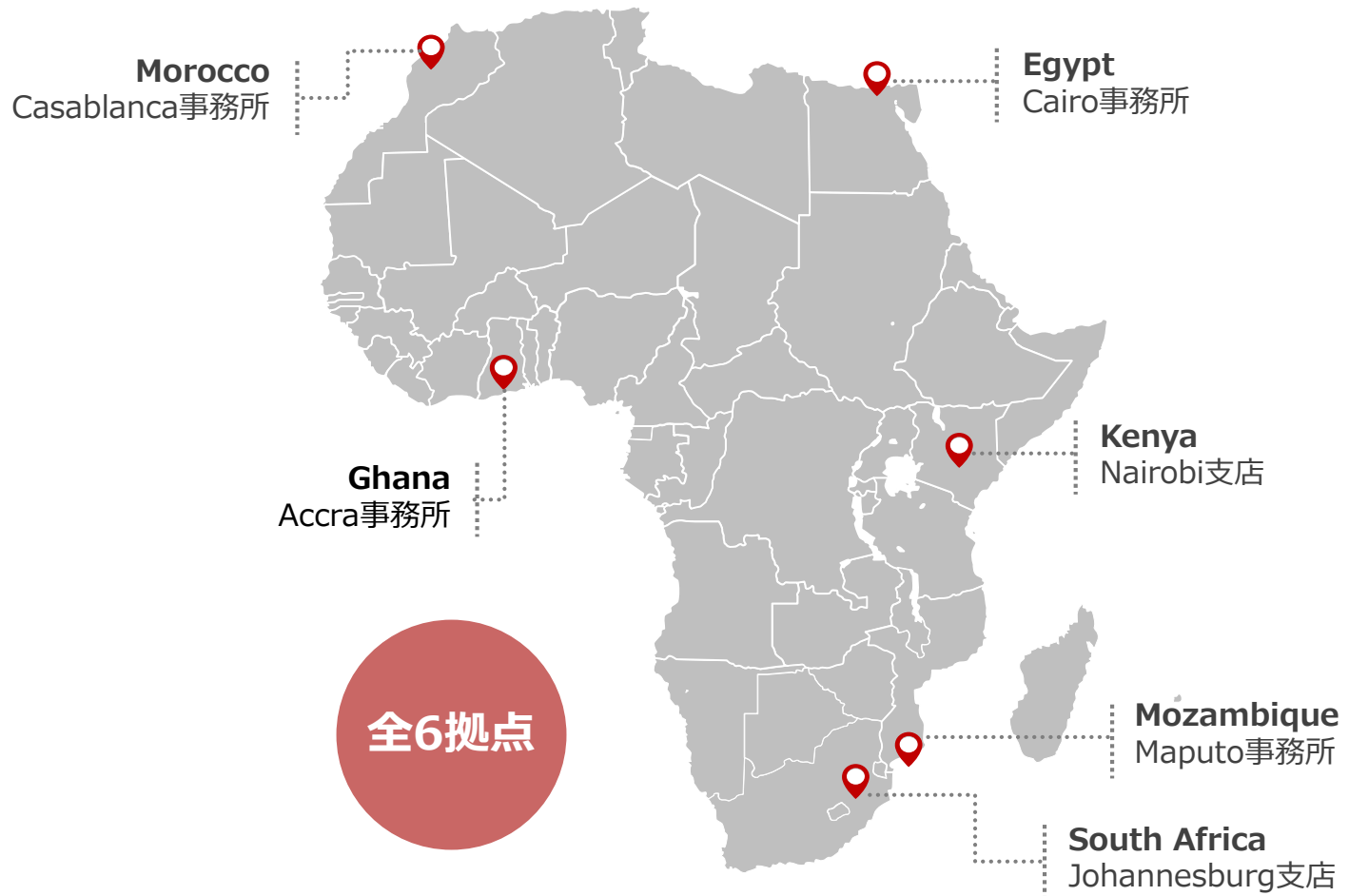
（2023年3月31日現在）

### 事業本部と地域組織（2023年4月1日現在）



## 8. モロッコでの当社事業概要 – 三井物産アフリカ拠点

中東アフリカブロック 中東三井物産 (在Dubai) 傘下



## 8. モロッコでの当社事業概要 – サフィ 石炭火力発電事業

カサブランカ西南約250kmに位置するサフィでの発電容量約1,400MWの超々臨界石炭火力発電事業

### ■ 概要

|      |  |
|------|--|
| 発電容量 | 2 x 693MW<br>超々臨界圧石炭火力発電方式 (アフリカ初)                         |
| 株主   | 三井物産33% (他株主 : Engie、Nareva)                               |
| 売電先  | モロッコ国営電力水公社 (ONEE)   |
| 主要機器 | ボイラー : IHI社 タービン : 三菱重工業社                                  |
| COD  | 2018年12月 (PPA期間30年)  |
| 建設地  | サフィ市近郊 (右図参照)  |
| 資金調達 | プロジェクトファイナンス融資総額 2.1bil USD相当<br>(JBIC投資金融・NEXI海外事業貸付金保険他) |

### ■ 現状

2018年12月操業開始より、モロッコにおいて重要な電力供給源として稼働中 (同国電力需要の約25%をカバー)



## 8. モロッコでの当社事業概要 – タザ 風力発電事業

フェズ東約100kmに位置するタザでの風力発電事業

### ■ 概要

|      |   |
|------|---|
| 発電容量 | 87MW                                      |
| 株主   | 三井物産40% (他株主：仏EDFR 60%)                   |
| 売電先  | モロッコ国営電力水公社 (ONEE)                        |
| タービン | GE Renewable Energy (3.2MW x 27基)         |
| COD  | 2022年7月 (PPA期間20年)                        |
| 建設地  | タザ市近郊 (右図参照)                              |
| 事業費  | 140mil EUR相当<br>(JBIC投資金融・NEXI海外事業貸付金保険他) |

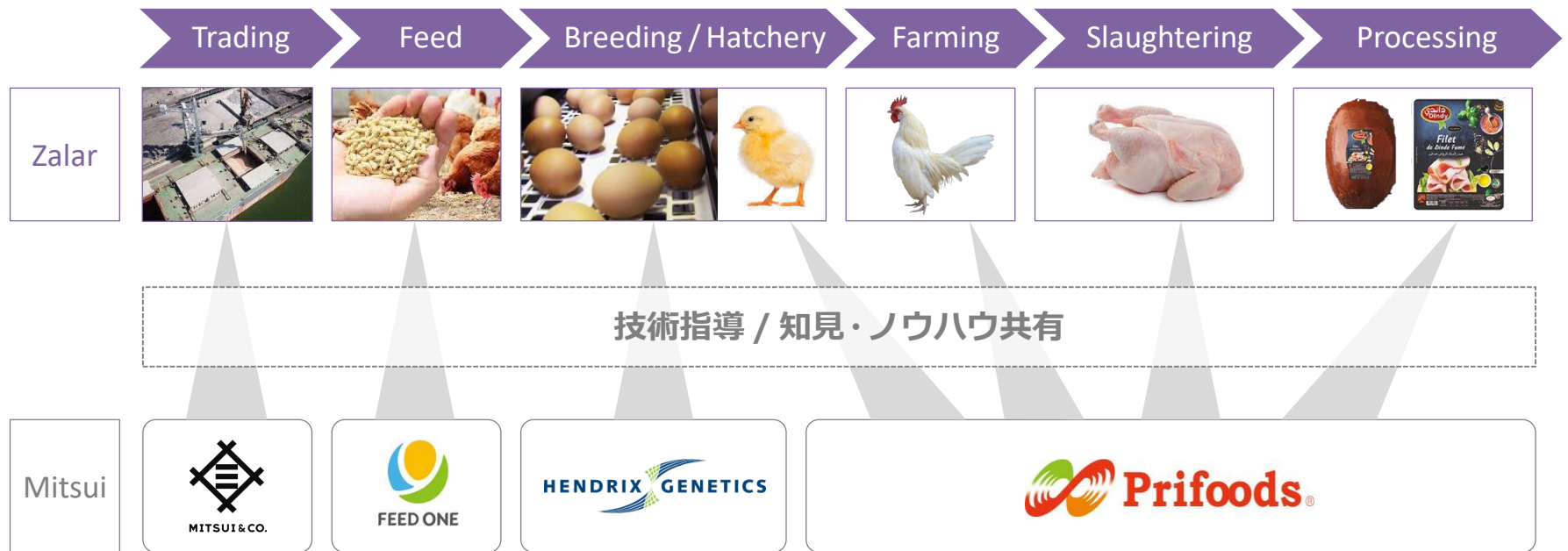
### ■ 現状

2023年7月1日に操業開始1周年を達成



## 8. モロッコでの当社事業概要 – ザラル (Zalar Holding)

- Zalarは1974年にモロッコで創業し、穀物輸入から飼料製造、養鶏、食肉加工までを一貫して手掛けるインテグレーション事業を展開
- 三井物産は2018年に出資参画し、三井物産グループが有する知見・ノウハウを梃子に、同社の事業競争力強化に取り組み中



360° business innovation.



MITSUI & CO.